

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 「高めよう自分力、開こう未来への扉」をスローガンに、授業や行事・部活動、地域連携など学校におけるあらゆる教育活動を通して、一人ひとりの能力を最大限に高め、次に掲げるめざす学校像の実現に最善を尽くす。
1. 勉強と部活・行事の両方とも本気で取り組む学校（多様性とバランス）
 2. 希望する進路を実現する学校（自主性と挑戦する気概）
 3. 地域から愛され信頼される学校－開かれた学校（社会性につながる力）

2 中期的目標

1. 授業の充実と進路の実現
 - (1) 「わかる授業」「学力がつく授業」「進路に結果を出す授業」に取り組む
 - ① 授業アンケートを軸にした PDCA サイクルの徹底による授業改善を進める。
 - ② 教師力（教科指導力＋人間力）を向上させる。
 - －これまでに蓄積してきた授業実践の成果を継承しつつ、ICT 機器を活用するなど授業に新風を吹き込む取組みを進める。
 - －教育センターや他校種との連携、教育産業の活用を図る。
 - ③ 「着想・展開・発表する力」を育む取組みを進める。
 - －アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた能動的な学習法を追求する。
 - －発表の舞台を作る。（学級読書会、英語プレゼン大会、情報プレゼン発表など）

※学校教育自己診断（生徒）における「授業はわかりやすい」の肯定率（H30 68%）を、2021 年度には 75%以上をめざす。
 - (2) 進学実績の向上
 - ① 「授業・週末課題・講習」の一体化と充実を図る。
 - ② 「自学力」の育成－もっと学びたい生徒のための環境づくりに取り組む。
 - ③ 「チーム国立」の組織化－国立進学希望者の進路を実現させる。
 - ④ 学習指導要領改訂、高大接続改革に向けた準備を進める。

※センター試験受験者数（H30・150 名→2021 年度・170 名）、国立現役合格者（H30・8 名→2021 年度・20 名）、関関同立現役合格者（H30・69 名→2021 年度・110 名）をめざす。
2. 自主自律の精神の涵養
 - (1) 「自主・自律の力」を育成するとともに、「つながることの大切さ」を実感させる。
 - ① 勉強と部活・行事の両立 ー学習・生活習慣を確立させる。
 - ② 生徒会活動の自主運営 ー学校祭等の自主企画・運営を行い、生徒に集団活動でのみ味わえる成就感、達成感を体験させる。
 - ③ 国際理解の推進 ー国際交流事業に取り組む。

※学校教育自己診断（生徒）における「生徒会活動、ホームルーム活動は活発である」の肯定率（H30 76%）を、2021 年度に 82%以上をめざす。
 - (2) 教育相談体制の充実
 - ① SC を積極的に活用し、本人の希望を大切にしながら情報の共有化を図り、学校全体で支えていく体制を充実させる。

※学校教育自己診断（生徒）における「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定率（H30 77%）を、2021 年度には 83%以上をめざす。
3. 学校力を高める機能的な組織運営と地域連携
 - (1) 機能的な組織運営と学校情報の積極的発信
 - ① チームワーク・フットワーク・ネットワークを生かした機能的な校務運営に務める。
 - ② ミドル・アップダウン・マネジメントを有効に機能させる。また、積極的な OJT を通じて次代を担うリーダーの育成に努める。
 - ③ 学校説明会、HP などを活用して、積極的な情報発信に努める。
 - ④ 学校運営協議会、PTA、同窓会との連携を強化する。

※学校教育自己診断（教職員）「学校行事や校務分掌等において、PDCA が実施されている」の肯定率（H30 72%）を 2021 年度には 85%以上をめざす。
 - (2) 地域連携の推進
 - ① 早朝あいさつ運動、地域清掃、図書館活動、地区文化祭などへの積極的な参加

※学校教育自己診断（生徒）「授業や部活動などで、保護者や地域の人々と関わる機会がある」の肯定率（H30 48%）を 2021 年度には 55%以上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和元年 11 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>【保護者】回収率は 92%と高位安定（3 年連続 90%超）。19 項目中 16 項目が昨年と同等以上の評価、肯定度が 90%を超えている項目は「登美丘高校に進学させて良かった」「学校行事によく取り組んでいる」「仲の良い友達がいる」となっている。伸び率で 5P と最も伸びているのが進路指導の満足度で、教職員のきめ細やかな指導が、保護者の信頼につながっていると感じる。逆に大きく低いのが一日 1 時間以上の学習者の割合。昨年より 2P 上がり 47%となったが、（1 年 2 年 3 年）(40・41・61%)と工夫、改善をめざす。</p> <p>【生徒】31 項目の質問のうち、肯定度が 5P 以上 UP は 15 項目、3P 以上は 13 項目。肯定度の高い評価になっている。学習面において、最も向上 P が高かったのは、「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」という項目で、ICT 活用と並んで主体的な行動を促す授業の増加が推定される。生徒指導面で「安心して学校生活を送れている指標」が 90%を超え、「親身になって応じてくれる先生が多い」項目も 80%を超えている。96%の肯定率のある「規則をよく守っている」の項目と合わせ、落ち着いた学校環境が維持されている。最も P の上がったのは「人権や男女平等について学ぶ機会がある」の項目で、13P の向上。学校の人権尊重の意図が良く反映されたデータとなっている。更に安心して学習、行事などに打ち込める環境をめざす。</p> <p>【教職員】相対的に低い項目が学校行事や校務分掌等における PDCA の実施度合い（61%/昨 72%）。外的環境変化の大きい中で、PDCA に対する意識が上がっていると感じている。十分に連携をした上で変化に取り組んでいきたい</p>	<p>第一回（6/25）</p> <p>○授業見学 ICT を利用したり、子どもが楽しそうに授業参加したりして、とてもいい雰囲気だった。ぜひこういう授業を続けて行ってほしい。</p> <p>○進路について 私立大学の定員厳格化は今後も続くと思われる。しかし、数字は大切であるが、数字のみならず、生徒一人一人を見据えたきめ細やかな指導を続けてほしい。</p> <p>第二回（9/14）</p> <p>○文化祭見学 先生が、生徒と仲良さそうに生き生きとしている様子が良かった。</p> <p>○学校経営計画進捗について 順調に取り組みが進められている。近隣に住んでいるが、素直に挨拶をしてくれるし、道も譲ってくれるのでありがたい。そういう生徒育成に邁進してほしい。いよいよこれから、進路の決定時期、先生方、健康に注意して指導をお願いしたい</p> <p>第三回（1/28）</p> <p>平成 31 年度の経営計画は、概ね達成されている。個々の生徒の進路希望に沿って、きめ細やかな指導をよろしく願いたい。入試改革は、まだ全体像が見えないところもあるが、次年度経営計画に基づきしっかり取り組んでほしい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 授業の充実と進路の実現	(1)「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果を出す授業」に取り組む (2)進学実績の向上	(1) ア・進路希望の実現につなげる組織的な授業改善 5月 個人・教科による授業改善テーマ設定 7月 第1回授業アンケートの実施 8月 個人・教科にフィードバック 9月 個人・教科から振り返りシートの提出 11月 公開研究授業 12月 第2回授業アンケートの実施 1月 個人・教科フィードバック 1月 個人・教科から振り返りシートの提出 2月 成果発表(国・数・英・社・理他) ・教科の枠を超えたベテラン教員と初任者等の授業交流を積極的に行い、ベテランの指導方法のノウハウを継承するとともに、若手の持つ最新の知識やスキルを交換し、学校全体の授業力の向上をめざす。 イ・ICT機器を整備し、教材の共有化をすすめ、教員の業務負担の軽減を図る。 ウ・他校種との連携や教育産業の活用を図る。 エ・英語プレゼン大会を1年で実施。情報プレゼン発表を充実させ、ビジネスアイデア甲子園入賞をめざす。 (2) ア・「授業・週末課題・講習」の一体化と充実を図るとともに、家庭学習の時間を増やす。 イ・「チーム国公立」の年間活動計画の作成。 ・進学実績の向上を図る。 ウ・学習指導要領改訂、高大接続改革に備えた取組を進める。	(1) ア・生徒自己診断「わかりやすい授業」68→70% ・授業アンケート質問9(知識や技能が身についた) 学校平均 3.17→3.19 ・生徒自己診断「教え方に工夫」60→65% 「発表する機会」71→75% イ・ICT機器の使用研修会と実践報告会の実施 ウ・地元の中学校と連携し、授業見学を4回以上実施 エ・英語プレゼン、情報プレゼンの取組み内容 (2) ア・週末課題、講習の実施状況 ・保護者自己診断「1時間以上の家庭学習」45→50% イ・チーム国公立の学年別活動内容と参加者数 ・センター受験者(150→160名以上) 国公立現役合格者(8→12名以上) 関関同立現役合格者(69→90名以上) ウ・各取組みの内容(英検他の受験者数等)	(1) ア・「わかりやすい授業」75% (○) (1年2年3年)(68・79・76%) ・(知識や技能が身についた) 学校平均 3.23 (○) (1年2年3年)(3.19・3.30・3.19) ・「教え方に工夫」69% (○) ・「発表する機会」78% (○) イ・研修会 授業見学時でICT授業21/47(45%) (体芸除) PTAに3学年共ICT寄贈効果大(実施状況報告会より)(○) ウ・10月に授業見学(△) エ・2/6英語プレゼン大会(クラス代表生徒の選出工程、代表プレゼンが狙い通り実施できた)(○) 情報はビジネスアイデア甲子園で学校賞(○) (2) ア・1.2年で年間16・19回(国数英から2教科ずつ) ほぼ提出(90%以上) 3年は16講座(早朝・放課後) 生徒の理解促進に寄与 (○) ・「1時間以上の家庭学習」47% (△) (1年2年3年)(40・41・61%)と課題残す イ・国公立合格者の話を聞く会1年30・2年15計45名参加 大教大キャンパス訪問に3名参加 学年別 1年10月集会50名 2年10月集会51名、1月集会48名 3年センター説明会(6回) 都度必要事項・生徒評価も○(各30)(○) センター受験 139 (△) 国公立現役合格 8 (△) 関関同立現役合格 64 (△) ウ・高大接続 大阪教育大学コンソーシアムの参加 周知遅れが発生 (△)
2 自主自律の精神の涵養	(1)「自主・自律の力」を育成するとともに、「つながることの大切さ」を実感させる (2)教育相談体制の充実	(1) ア・生指部と学年団の連携により、朝の登校指導を強化し、遅刻を減らす。 イ・生徒会活動の自主運営に取り組む。(学校祭等の行事) ・策定した部活動に係る活動方針に則り、計画的に取り組む。 ウ・宮古島修学旅行、国際交流事業の実施。 (2) ア・学年団会議等で生徒の情報交換を密にし、SCとの積極的な連携を図る。	(1) ア・遅刻総数の5%削減 イ・生徒自己診断「生徒会・HR活動が活発である」76→78% ウ・修学旅行生徒満足度80%以上に (2) ア・生徒自己診断「親身になって応じてくれる先生が多い」77→79%	(1) ア・2学期末遅刻回数 1001/昨1616 38%減(◎) 特に3年生比較(562/昨1039)・46%減と顕著 イ・「生徒会・HR活動」83% 正門での活動など可視化が進んだ。(○) ウ・修学旅行満足度 90%超(◎) 2.0%の否定的意見を次年度に活かす。・ケントリッジ高校との相互交流・来てもらったがコロナで米に行けず(△) (2) 「親身になって応じてくれる」81% (◎) SC・教育相談の連携(◎)
3 学校力を高める機能的な組織運営と地域連携	(1)機能的な組織運営と学校情報の積極的発信 (2)地域連携の推進	(1) ア・学年団と分掌等の連携強化を図り、会議時間の短縮、業務の効率化に取り組む。 ・前年度の総括に基づき、「PDCA」サイクルを意識して回していく。 イ・OJTを重視し、若手教員の育成を図る。 -「初任研」、「インターミディエイトセミナー」、「10年研」を連動させる -広報活動への積極的な参画 ウ・若手教員の経営参画意識を高めるための座談会を開催する。 エ・HPの内容を充実させ、アクセス数の更なる増加をめざす。 オ・PTA、同窓会との連携を強め、創立100周年(2023年)に向けた準備を進める。 (2) ア・地域活動への積極的参加 早朝あいさつ運動、地域清掃、図書館活動、地区文化祭などの取組みに参加し、地域の活性化に貢献する。	(1) ア・教職員自己診断「情報交換」68→75% 「PDCA」72→75% イ・各OJTの取組み人数、内容 ウ・座談会を4回以上開催 エ・HPの内容充実とアクセス数の5%増(H30:約17.4万回) オ・記念事業の計画案の策定 (2) ア・生徒自己診断「授業や部活動で保護者や地域の人々に関わる機会がある」48→50%	(1) ア・「情報交換」76%(○) 「PDCA」61%(△) しっかりした振り返りの元、改革が必要なものもあると思われる。 イ・11月を公開授業月間とし、授業を公開「初任研」「10年研」の連動も行った。2月に授業の成果発表会を実施(2年目2名)(○) ウ・10年研担当者を座長とし、座談会を4回開催、授業力向上、願書指導共有などで意見交換(○) エ・若手の先生登美丘NOW記事掲載に寄与(R1_約11.5万回)(△) オ・創立100周年実行委員会の発足記念誌・式典・記念品・財務の組織を発足、動き出す(○) (2) ア・56%(○) 部活動による駅前あいさつ運動や地域清掃に積極的に参加(◎)